田辺市役所及び田辺市民総合センターの

今後の整備に関するアンケート

《報告書》

平成 28 年 4 月 22 日

田辺市庁舎整備方針検討委員会

1.調査の概要

- (1)調査の対象
 - ・田辺市に居住する満 18 歳以上の市民を対象
 - ・住民基本台帳から3,000人を無作為抽出
- (2) 調査期間

・平成28年2月18日(木)~平成28年3月18日(金)

- (3) 調査方法
 - ・郵送による配布、郵送による回収
- (4) 配布・回収状況
 - ・配布数:3,000 票
 - ・回収数:1,358 票(うち、4 票は白紙回答)
 - ・有効回収数:1,354票(うち、7票は地域別無回答)

(注:回収数は、平成28年4月11日現在返送分)

(5) 地域別配布状況

旧市町村名	人口	世帯数	送付数	回収数	回収率
旧田辺市	65,210	29,389	2,508	1,138	45.4%
旧龍神村	3,466	1,648	140	70	50.0%
旧中辺路町	2,934	1,572	120	44	36.7%
旧大塔村	2,837	1,396	110	45	40.9%
旧本宮町	2,976	1,585	122	50	41.0%
(地域別無回答)	-	-	-	7	-
計	77,423	35,590	3,000	1,354	45.1%

注)1 回収率は、送付数に対する回収数の割合

注)2 人口・世帯数は、平成28年1月末現在(住民基本台帳)

(6) 調査結果の見方

・各回答項目の割合(%)の計は、端数処理の関係上、100%を上下する場合があります。
 ・回答の割合(%)は、アンケートの回答者数を母数としているため、複数回答の設問については、割合(%)の計が100%を超えています。

2.調査結果

問1.性別

「男性」が45.3%、「女性」が54.3%で、女性の方からの回答が若干多くなっている。



54.3%

45.3%

問2.年齢

「60~69 歳」が20.8%と最も多く、次いで「70~79 歳」が18.8%となっており、60 歳 以上を合計すると51.7%と全体の約半分を占める。

0.4%

100.0%



29歳以下	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80歳以上	無回答	計
7.5%	10.0%	13.5%	17.0%	20.8%	18.8%	12.1%	0.3%	100.0%

問3.職業

職業は、「無職」が24.7%で最も多く、高齢者からの回答が多かったことから退職者の回答も多かったことが推測できる。次いで「会社員・会社役員」が17.8%、「家事専従者」が16.9%と続いている。



問4.現在のお住まいの地域

現在の住まいを旧市町村ごとにみると、人口を考慮する必要があるものの全回収票に対 する割合は旧田辺市在住の方は84.0%、それ以外の旧町村在住の方は3.2%~5.2%となっ ている。



◎旧田辺市 □旧龍神村 ◎旧中辺路町 ◎旧大塔村 ◎旧本宮町 ■無回答

旧田辺市	旧龍神村	旧中辺路町	旧大塔村	旧本宮町	無回答
84.0%	5.2%	3.2%	3.3%	3.7%	0.5%

問4-(1) 旧市町村の人口に対する回収票数の割合

旧市町村ごとの人口に対する回収率をみると、旧龍神村が 50.0%と最も高く、次いで旧 田辺市が 45.4%となっている。



旧市町村名	人口	回答数	回答率
旧田辺市	65,210	1,138	45.4%
旧龍神村	3,466	70	50.0%
旧中辺路町	2,934	44	36.7%
旧大塔村	2,837	45	40.9%
旧本宮町	2,976	50	41.0%
計	77,423	1,347	44.9%

問4-(2)旧市町村ごとの町字別回答率地区別回収数(%表示)

旧田辺市

旧田辺市の中だけで地区別に回収数を見てみると、旧田辺市全体を100%とした場合、「新 庄町」が6.0%と最も多く、次いで「上秋津」が5.5%となっており、次いで「秋津町」が 5.2%、「稲成町」が4.8%と続いている。



旧田辺市							
上屋敷	1.8%	磯間	1.2%	宝来町	1.0%	中万呂	3.5%
中屋敷町		末広町	0.6%	東山	2.1%	下万呂	3.5%
下屋敷町	1.0%	東陽	2.3%	学園	1.1%	上三栖	0.4%
新屋敷町	0.7%	扇ヶ浜	0.3%	文里	2.2%	中三栖	1.9%
南新町	0.4%	元町	1.1%	神子浜	3.1%	下三栖	3.8%
北新町	0.3%	目良	1.8%	新庄町	6.0%	上野	0.4%
栄町	0.4%	江川	1.6%	神島台	0.4%	長野	1.1%
今福町	0.3%	古尾	0.7%	たきない町	1.0%	伏莵野	0.2%
福路町	0.3%	天神崎	0.7%	上秋津	5.5%	城山台	1.0%
本町	0.2%		1.2%	秋津川		芳養町	3.9%
紺屋町	0.2%	新万	3.3%	稲成町	4.8%	明洋	3.7%
片町		朝日ヶ丘	1.9%	秋津町	5.2%	芳養松原	2.3%
高雄	2.9%	あけぼの	2.6%	むつみ	0.8%		2.8%
湊	2.7%	南新万	1.4%	上万呂	1.7%	上芳養	2.6%
						計	100.0%
旧田辺市人	П						
上屋敷	1,117	磯間	865	宝来町	499	中万呂	1,861
中屋敷町	403	末広町		東山	1,295	下万呂	2,182
下屋敷町	444	東陽	1,678		770	上三栖	262
新屋敷町	533	扇ヶ浜		文里	1,748	中三栖	1,367
南新町	169	元町	29	神子浜	1,657	下三栖	2,139
北新町	116	目良	1,477	新庄町	4,805	上野	137
栄町	141	江川	1,095	神島台	396	長野	480
今福町	135			たきない町		伏莵野	127
福路町	83	天神崎		上秋津		城山台	558
本町	161	· · ·		秋津川	685	芳養町	1,795
紺屋町		新万		稲成町	2,933		2,485
片町		朝日ヶ丘		秋津町	3,205	芳養松原	1,732
高雄	/	あけぼの		むつみ	557	中芳養	1,945
湊	939	南新万	1,163	上万呂	1,109	上芳養	1,759
						計	65,210

旧龍神村

旧龍神村の中だけで地区別に回収数を見てみると、旧龍神村全体を100%とした場合、「下山路地区」が31.4%、「上山路地区」が28.6%、「中山路地区」が27.1%、「龍神地区」が12.9%で続いている。



旧龍神村		地区名	人口	世帯数
龍神地区	12.9%	龍神村龍神地区	598	280
上山路地区	28.6%	龍神村上山路地区	1,054	501
中山路地区	27.1%	龍神村中山路地区	903	421
下山路地区	31.4%	龍神村下山路地区	911	446
計	100.0%	計	3,466	1,648

旧中辺路町

旧中辺路町の中だけで地区別に回収数を見てみると、旧中辺路町全体を100%とした場合、「栗栖川地区」が56.1%と半数以上を占めており、「近野地区」が24.4%、「二川地区」が19.5%で続いている。



旧中辺路町		地区名	人口	世帯数
栗栖川地区	56.1%	中辺路町栗栖川地区	1,646	854
二川地区	19.5%	中辺路町二川地区	637	374
近野地区	24.4%	中辺路町近野地区	651	344
計	100.0%	計	2,934	1,572

旧大塔村

旧大塔村の中だけで地区別に回収数を見てみると、旧大塔村全体を100%とした場合、「鮎 川地区」が68.9%と大半を占めており、「三川地区」が20.0%、「富里地区」が11.1%で続 いている。



旧本宮町

旧本宮町の中だけで地区別に回収数を見てみると、旧本宮町全体を100%とした場合、「三 里地区」が 38.8%と最も多く、「本宮地区」22.4%、「請川地区」が 20.4%、「四村地区」 が18.4%で続いている。



旧本宮町		地区名	人口	世帯数
本宮地区	22.4%	本宮町本宮地区	559	279
三里地区	38.8%	本宮町三里地区	1,117	561
四村地区	18.4%	本宮町四村地区	607	334
請川地区	20.4%	本宮町請川地区	693	411
計	100.0%	計	2,976	1,585

問5.田辺市に(合併前の旧市町村を含む。)に何年ぐらいお住まいですか。

「30年以上」お住まいの方が68.4%で最も多く、「20~30年」が12.0%、「10~20年」が10.6%と続いている。

「~30年」の合計は 29.9%で、「30年以上」の約半分である。



問6.最近、約5年の間に市役所(本庁舎)を訪れたことがありますか。

「ある」と回答した方が 77.5%、「ない」と回答した方が 21.2%で、約 8 割の方が訪れている。



ある	ない	無回答	計
77.5%	21.2%	1.3%	100.0%

問7.どれくらいの頻度で市役所(本庁舎)を訪れましたか。

「年に3~4回程度」と回答した方が43.8%、次いで「年に1回程度」が37.3%、「月 に1~2回程度」が10.7%となっており、週に1回以上来庁している方は、合計2.0%で ある。



問8.主にどのような交通手段で市役所(本庁舎)を訪れましたか。

「自家用車」が 76.7%と大きな割合となっており、次いで「バイク」が 12.9%、「自転車」が 5.3%で、多くの市民は公共交通手段を使わずに来庁していることが分かる。

				1.0% –	0.0% ~	0.1%
		76.7%			12.9%	5.3%
				0.7%	0.2%2.5	%0.6%
0%	20%	40%	60%	8	0%	100%
■自家	(用車	ロタクシー		⊠バス		
🖸 バイ	ク	🖾 J R		ロ J R + タ	クシー又は	はバス
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□	車	⊠徒歩		□その他		
■無回	答					
自家用車		76.7%	JR + タクシ	ー又はバ	ス	0.2%
タクシー		1.0%	自転車			5.3%
バス		0.7%	徒步			2.5%
バイク		12.9%	その他			0.6%
JR		0.0%	無回答			0.1%
		計				100.0%

問9.最近、約5年の間に市民総合センターを訪れたことがありますか。

「ある」と回答した方が 64.1%、「ない」と回答した方が 34.4%であるが、本庁舎への 来庁状況と比較すると、本庁舎を訪れた方の割合が高くなっている。



問10.どれくらいの頻度で市民総合センターを訪れましたか。

「年に1回程度」と回答した方が43.2%、次いで「年に3~4回程度」が35.2%、「月に1~2回程度」が11.1%となっている。

週に1回以上訪れている方は3.8%で、市役所(本庁舎)の2.0%と比較すると約1.9倍 となっており、市民総合センターは市民が利用する施設が中心であることから、利用者は 頻繁に訪れる傾向が高いとみられる。



問11.主にどのような交通手段で市民総合センターを訪れましたか。

「自家用車」が75.5%と圧倒的に多く、次いで「バイク」が13.6%、「自転車」が5.9% となっており、市役所(本庁舎)の来庁者とほぼ同様の傾向を示している。

多くの市民は、市役所(本庁舎)と同様に公共交通手段を使わず来庁していることが分 かる。

		75.5%	0.7		9.6% 5.9%
0%	20% ■自家用車 □バイク 回自転車 ■無回答	40% □タクシー 図JR 図徒歩	C	80% ⊠ バス ⊐ JR + タクシ ∃ その他	100% ー又はバス
9	1家用車 クシー	0.7%	JR + タクシーン 自転車	てはバス	0.0% 5.9%
7	<u> </u>	13.6%	徒歩 その他 無回答		2.5% 0.7% 0.1%
5	IV.	0.0% 計			100.0%

問12.現在の市役所(本庁舎)及び市民総合センターの現状についての考え(複数回答)

最も多かったのは、「津波や洪水の想定浸水域にあるため、被災後の災害対応に不安がある」が77.6%、次いで「耐震性に問題があるため、大地震が来た時に不安がある」が59.8% となっており、地震や津波に対する不安を持っている方が多い。

次いで「古い建物というイメージがある」が42.9%、「一つの庁舎だけでは用事が済まず、 他の庁舎に行かなければならない」が34.8%となっている。



1.耐震性に問題があるため、大地震が来た時に不安がある	59.8%
2.津波や洪水の想定浸水域にあるため、 被災後の災害対応に不安がある	77.6%
3.一つの庁舎だけでは用事が済まず、他の庁舎に行かなければならない	34.8%
4.古い建物というイメージがある	42.9%
5.駐車場・駐輪場が少ない	30.8%
6.高齢者や身体障害者に対するバリアフリー化が十分でない	25.0%
7.周辺の道路事情がよくない	11.8%
8.市民が自主的な活動に利用できる場所が少ない	14.1%
9.車や交通機関等で利用しやすい位置にある	22.4%
10.商店街や、公的機関、銀行等にも寄りやすい位置にある	22.0%
11.その他	2.2%
<u></u> <u></u> <u></u>	343.5%

その他の回答について主なものは、「あまり(全く)利用しないのでわからない」等が9 人、「交通アクセスが不便」、「津波に備えて移転すべき」、「暗くて狭いイメージ」等がそれ ぞれ3人である。 問12.現在の市役所及び市民総合センターの現状についての考え×3地区割(複数回答)

市域を「中心市街地地区」、「他の旧田辺市域」、「旧町村地域」の3つに区分してそれぞれの回答状況をみると、耐震性については3地区ともほぼ同等の高い比率で不安が示されている。

一方、津波、洪水等による浸水については、中心市街地以外の旧田辺市域で約80%の方が、また、山間部主体の旧町村地域においても約76%の方が不安を示されており、いずれ も中心市街地に居住する方よりも高い比率となっている。

庁舎の分散状況や駐車場・駐輪場の現状については、「他の旧田辺市域」の方の回答が「中 心市街地地区」よりも多くなっている。

「車や交通機関等で利用しやすい位置にある」や「商店街や、公的機関、銀行等にも寄 りやすい位置にある」という評価は、中心市街地地区で約40%前後と最も高く、次いで「他 の旧田辺市域」が約20%となっている。一方、「旧町村地域」では約8%で「周辺の道路事 情がよくない」という評価と併せてみると「旧町村地域」の方は、現庁舎は必ずしも利便 性の高い位置に立地していないと考えていることが伺える。

	中心市街地 地区	他の旧田辺 市域	旧町村 地域
1.耐震性に問題があるため、大地震が来た時に不安がある	58.8%	60.5%	58.6%
2.津波や洪水の想定浸水域にあるため、被災後の災害対応に不安がある	70.3%	79.5%	76.4%
3.一つの庁舎だけでは用事が済まず、他の庁舎に行かなければならない	26.9%	37.3%	30.9%
4.古い建物というイメージがある	35.7%	44.0%	45.0%
5.駐車場・駐輪場が少ない	20.3%	32.4%	33.5%
6.高齢者や身体障害者に対するバリアフリー化が十分でない	24.2%	26.4%	19.9%
7.周辺の道路事情がよくない	6.0%	11.7%	16.8%
8.市民が自主的な活動に利用できる場所が少ない	11.0%	15.3%	12.0%
9.車や交通機関等で利用しやすい位置にある	38.5%	22.1%	7.9%
10.商店街や、公的機関、銀行等にも寄りやすい位置にある	43.4%	20.8%	7.9%
11.その他	2.2%	1.3%	5.8%
計	337.4%	351.4%	314.7%

「中心市街地地区」は、平成 21 年に策定された田辺市中心市街地活性化基本計画の施行 区域を含む、以下の地域をいう。

上屋敷 中屋敷町 下屋敷町 新屋敷町 南新町 北新町 栄町 今福町 福路町 本町 紺屋町 片町 湊 磯間 末広町 高雄 東陽

【中心市街地地区】

最も多かったのは、「津波や洪水の想定浸水域にあるため、被災後の災害対応に不安がある」が70.3%、次いで「耐震性に問題があるため、大地震が来た時に不安がある」が58.8% となっており、全体の回答と同じで地震や津波に対する不安を持っている方が多い。

また、中心市街地ということで、「商店街や、公的機関、銀行等にも寄りやすい位置にある」が43.4%、「車や交通機関等で利用しやすい位置にある」が38.5%と続いている。



1.耐震性に問題があるため、大地震が来た時に不安がある	107	58.8%
2.津波や洪水の想定浸水域にあるため、被災後の災害対応に不安がある	128	70.3%
3.一つの庁舎だけでは用事が済まず、他の庁舎に行かなければならない	49	26.9%
4.古い建物というイメージがある	65	35.7%
5.駐車場・駐輪場が少ない	37	20.3%
6.高齢者や身体障害者に対するバリアフリー化が十分でない	44	24.2%
7.周辺の道路事情がよくない	11	6.0%
8.市民が自主的な活動に利用できる場所が少ない	20	11.0%
9.車や交通機関等で利用しやすい位置にある	70	38.5%
10.商店街や、公的機関、銀行等にも寄りやすい位置にある	79	43.4%
11.その他	4	2.2%
<u></u> 古 ↓ 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	614	337.4%

【他の旧田辺市域】

最も多かったのは、「津波や洪水の想定浸水域にあるため、被災後の災害対応に不安があ る」が79.5%、次いで「耐震性に問題があるため、大地震が来た時に不安がある」が60.5% となっており、また、「古い建物というイメージがある」が44.0%、「一つの庁舎だけでは 用事が済まず、他の庁舎に行かなければならない」が37.3%で全体の回答と同じ順位にな っている。



1.耐震性に問題があるため、大地震が来た時に不安がある	558	60.5%
2.津波や洪水の想定浸水域にあるため、被災後の災害対応に不安がある	733	79.5%
3.一つの庁舎だけでは用事が済まず、他の庁舎に行かなければならない	344	37.3%
4.古い建物というイメージがある	406	44.0%
5.駐車場・駐輪場が少ない	299	32.4%
6.高齢者や身体障害者に対するバリアフリー化が十分でない	243	26.4%
7.周辺の道路事情がよくない	108	11.7%
8.市民が自主的な活動に利用できる場所が少ない	141	15.3%
9.車や交通機関等で利用しやすい位置にある	204	22.1%
10.商店街や、公的機関、銀行等にも寄りやすい位置にある	192	20.8%
11.その他	12	1.3%
計	3240	351.4%

【旧町村地域】

最も多かったのは、「津波や洪水の想定浸水域にあるため、被災後の災害対応に不安がある」が 76.4%、次いで「耐震性に問題があるため、大地震が来た時に不安がある」が58.6%となってお り、全体の回答と同じで地震や津波に対する不安を持っている方が多い。

また、「駐車場・駐輪場が少ない」が33.5%となっており、「車や交通機関等で利用しやすい位置にある」が7.9%と他の地区より低いことから、遠方から自家用車等で来庁する人のために、車でアクセスしやすい庁舎が望まれているといえる。



1.耐震性に問題があるため、大地震が来た時に不安がある	112	58.6%
2.津波や洪水の想定浸水域にあるため、被災後の災害対応に不安がある	146	76.4%
3.一つの庁舎だけでは用事が済まず、他の庁舎に行かなければならない	59	30.9%
4.古い建物というイメージがある	86	45.0%
5.駐車場・駐輪場が少ない	64	33.5%
6.高齢者や身体障害者に対するバリアフリー化が十分でない	38	19.9%
7.周辺の道路事情がよくない	32	16.8%
8.市民が自主的な活動に利用できる場所が少ない	23	12.0%
9.車や交通機関等で利用しやすい位置にある	15	7.9%
10.商店街や、公的機関、銀行等にも寄りやすい位置にある	15	7.9%
11.その他	11	5.8%
計	601	314.7%

問13.市役所の機能について、あなたが重視されるのはどの機能ですか。(3つまで選択)

「防災拠点機能」が 66.5% で最も多く、次いで「住民サービス機能」が 64.9%、「相談機能」が 52.3%、「アクセス性」が 38.6% となっている。

市役所の機能については「住民サービス機能」や「防災拠点機能」、「相談機能」という市役所の基本機能が重要視されている。

「地域振興機能」は、26.0%と(「市民交流機能」の11.4%の約2.3倍となっていることから)、市役所の基本機能のほかに、「地域振興機能」が望まれているといえる。



1.住民サービス機能(戸籍謄本や住民票の発行等)	64.9%
2.相談機能(子育て支援や高齢者福祉、保険·年金等に関する相談)	52.3%
3.市民交流機能(会議やイベント等で市民が利用できるスペース)	11.4%
4.防災拠点機能(災害対策の拠点となること)	66.5%
5.地域振興機能(地域情報等の受発信機能の拠点となること)	26.0%
6.複合的機能(レストランや喫茶店等、民間施設との複合化)	7.8%
7.アクセス性(車や交通機関等での来庁のしやすさ、バリアフリーなど)	38.6%
8.シンボル性(市のシンボルとなるようなすぐれたデザインの建物であること)	3.9%
9.経済性(建物の寿命が長いこと)	15.2%
10.その他の機能	1.0%
<u></u> =	287.5%

その他の回答について主なものは、「津波などの災害時の避難所としての機能」等が3人で ある。

問13.市役所の機能について、あなたが重視されるのはどの機能ですか×3地区割

(3つまで選択)

「中心市街地地区」、「他の旧田辺市域」、「旧町村地域」の3つの区分による回答状況を みると、「住民サービス機能」や「相談機能」は中心市街地を含む旧田辺市域の比率が高く、 「旧町村地域」は低くなっているが、これは行政局が市役所機能の一端を担っているため と考えられる。ただし、防災拠点機能では「旧町村地域」の比率が高くなり、行政局に加 えて災害対策の拠点として期待されていることが伺える。

また、「地域振興機能」では「旧町村地域」からの要望が高く、地域活性化への支援が求 められているといえる。

「アクセス性」については、問 12 の結果と同様に、「旧町村地域」からの要望が高くなっている。

	中心市街地 地区	他の旧田辺 市域	旧町村 地域
1.住民サービス機能(戸籍謄本や住民票の発行等)	70.8%	65.3%	49.2%
2.相談機能(子育て支援や高齢者福祉、保険・年金等に関する相談)	50.0%	52.9%	44.7%
3.市民交流機能(会議やイベント等で市民が利用できるスペース)	9.0%	11.7%	10.1%
4.防災拠点機能(災害対策の拠点となること)	59.6%	64.6%	72.4%
5.地域振興機能(地域情報等の受発信機能の拠点となること)	20.2%	24.6%	34.2%
6.複合的機能(レストランや喫茶店等、民間施設との複合化)	7.9%	8.1%	5.5%
7.アクセス性(車や交通機関等での来庁のしやすさ、バリアフリーなど)	31.5%	37.7%	42.2%
8.シンボル性(市のシンボルとなるようなすぐれたデザインの建物であること)	5.6%	3.6%	3.0%
9.経済性(建物の寿命が長いこと)	16.9%	13.4%	20.1%
10.その他の機能	2.2%	0.7%	1.0%
計	273.6%	282.6%	282.4%

【中心市街地地区】

「住民サービス機能」が 70.8%で最も多く、次いで「防災拠点機能」が 59.6%、「相談機能」が 50.0%、「アクセス性」が 31.5%と続いている。



1.住民サービス機能(戸籍謄本や住民票の発行等)	126	70.8%
2.相談機能(子育て支援や高齢者福祉、保険・年金等に関する相談)	89	50.0%
3.市民交流機能(会議やイベント等で市民が利用できるスペース)	16	9.0%
4.防災拠点機能(災害対策の拠点となること)	106	59.6%
5.地域振興機能(地域情報等の受発信機能の拠点となること)	36	20.2%
6.複合的機能(レストランや喫茶店等、民間施設との複合化)	14	7.9%
7.アクセス性(車や交通機関等での来庁のしやすさ、バリアフリーなど)	56	31.5%
8.シンボル性(市のシンボルとなるようなすぐれたデザインの建物であること)	10	5.6%
9.経済性(建物の寿命が長いこと)	30	16.9%
10.その他の機能	4	2.2%
計	487	273.6%

【他の旧田辺市域】

「住民サービス機能」が 65.3% で最も多く、次いで「防災拠点機能」が 64.6%、「相談機能」 が 52.9%、「アクセス性」が 37.7% となっている。



1.住民サービス機能(戸籍謄本や住民票の発行等)	596	65.3%
2.相談機能(子育て支援や高齢者福祉、保険・年金等に関する相談)	483	52.9%
3.市民交流機能(会議やイベント等で市民が利用できるスペース)	107	11.7%
4.防災拠点機能(災害対策の拠点となること)	590	64.6%
5.地域振興機能(地域情報等の受発信機能の拠点となること)	225	24.6%
6.複合的機能(レストランや喫茶店等、民間施設との複合化)	74	8.1%
7.アクセス性(車や交通機関等での来庁のしやすさ、バリアフリーなど)	344	37.7%
8.シンボル性(市のシンボルとなるようなすぐれたデザインの建物であること)	33	3.6%
9.経済性(建物の寿命が長いこと)	122	13.4%
10.その他の機能	6	0.7%
	2580	282.6%

【旧町村地域】

「防災拠点機能」が 72.4% で最も多く、次いで「住民サービス機能」が 49.2%、「相談機能」が 44.7%、「アクセス性」が 42.2% となっている。

他の地域に比べ「防災拠点機能」が72.4%と抜きんでており、災害時の拠点となること を望む人が多いことから災害対策の強化充実が求められているといえる。



1.住民サービス機能(戸籍謄本や住民票の発行等)	98	49.2%
2.相談機能(子育て支援や高齢者福祉、保険・年金等に関する相談)	89	44.7%
3.市民交流機能(会議やイベント等で市民が利用できるスペース)	20	10.1%
4.防災拠点機能(災害対策の拠点となること)	144	72.4%
5.地域振興機能(地域情報等の受発信機能の拠点となること)	68	34.2%
6.複合的機能(レストランや喫茶店等、民間施設との複合化)	11	5.5%
7.アクセス性(車や交通機関等での来庁のしやすさ、バリアフリーなど)	84	42.2%
8.シンボル性(市のシンボルとなるようなすぐれたデザインの建物であること)	6	3.0%
9.経済性(建物の寿命が長いこと)	40	20.1%
10.その他の機能	2	1.0%
╞┼	562	282.4%

22

問14.市役所(本庁舎)及び市民総合センターの今後の整備を考える際に、重視される項目 (3つまで選択)

「津波や洪水による浸水からの安全性の確保」が83.6%で最も多く、次いで「耐震性の 確保」が57.9%となっており、災害対策を重視される方が多いことが分かる。

また、「車での来庁のしやすさ」が45.8%、「庁舎分散の解消」が、32.3%で利便性に関する意見が続いている。

また、公共交通機関の利用が少ないこともあり、「駅からの距離」は 6.9% にとどまって いる。



1.津波や洪水による浸水からの安全性の確保	83.6%
2.耐震性の確保	57.9%
3.庁舎分散の解消	32.3%
4.庁舎機能(バリアフリー、使いやすさ等)の向上	26.0%
5.駅からの距離	6.9%
6.車での来庁のしやすさ(幹線道路との接続、駐車場の利用のしやすさ等)	45.8%
7.市街地の活性化に配慮すること	20.7%
8.整備の容易さ(建設や改修の費用や用地の確保等)	15.9%
9.その他	1.5%
計	290.7%

その他の回答について主なものは、「交通アクセスを良くしてほしい」等が5人、「耐震性 の向上(避難所としての機能)」等が3人である。

問14.市役所(本庁舎)及び市民総合センターの今後の整備を考える際に、重視される項目 ×3地区割(3つまで選択)

「中心市街地地区」、「他の旧田辺市域」、「旧町村地域」の3つの区分による回答状況を みると、「庁舎の分散状況」や「庁舎機能」よりも「庁舎の安全性の確保」が重視されてい る。とりわけ「旧町村地域」でその傾向が顕著に表れており、災害対策に関する行政局と の連携強化が求められているといえる。

また、「車での来庁のしやすさ」は、「旧町村地域」で重視されており、駐車場整備も含めて、来庁のしやすさが求められている。

「市街地の活性化」については、「中心市街地地区」で重視する方が多い一方で、「旧町 村地域」で重視する方の比率は中心市街地地区の1/2以下となっている。

	中心市街地 地区	他の旧田辺 市域	旧町村 地域
1.津波や洪水による浸水からの安全性の確保	74.2%	84.7%	88.4%
2.耐震性の確保	59.6%	56.2%	64.8%
3.庁舎分散の解消	28.7%	35.6%	21.1%
4.庁舎機能(バリアフリー、使いやすさ等)の向上	28.7%	25.8%	24.6%
5.駅からの距離	15.7%	6.1%	3.0%
6.車での来庁のしやすさ(幹線道路との接続、駐車場の利用のしやすさ等)	32.0%	47.4%	50.8%
7.市街地の活性化に配慮すること	32.0%	20.0%	14.1%
8.整備の容易さ(建設や改修の費用や用地の確保等)	14.0%	15.6%	18.1%
9.その他	1.1%	1.5%	1.5%
하	286.0%	293.0%	286.4%

【中心市街地地区】

「津波や洪水による浸水からの安全性の確保」が74.2%で最も多く、次いで「耐震性の確保」が59.6%となっており、災害対策を重視される方が多いことが分かる。

他の地区と比べると、中心市街地地区ということもあり「市街地の活性化に配慮すること」 が 32.0%と多くなっている。



1.津波や洪水による浸水からの安全性の確保	132	74.2%
2.耐震性の確保	106	59.6%
3.庁舎分散の解消	51	28.7%
4.庁舎機能(バリアフリー、使いやすさ等)の向上	51	28.7%
5.駅からの距離	28	15.7%
6.車での来庁のしやすさ(幹線道路との接続、駐車場の利用のしやすさ等)	57	32.0%
7.市街地の活性化に配慮すること	57	32.0%
8.整備の容易さ(建設や改修の費用や用地の確保等)	25	14.0%
9.その他	2	1.1%
<u></u> 青 十	509	286.0%

【他の旧田辺市域】

「津波や洪水による浸水からの安全性の確保」が84.7%で最も多く、次いで「耐震性の確保」 が56.2%となっており、災害対策を重視される方が多いことが分かる。

また、「車での来庁のしやすさ」が47.4%、「庁舎分散の解消」35.6%で利便性に関する意見が続いている。



1.津波や洪水による浸水からの安全性の確保	773	84.7%
2.耐震性の確保	513	56.2%
3.庁舎分散の解消	325	35.6%
4.庁舎機能(バリアフリー、使いやすさ等)の向上	236	25.8%
5.駅からの距離	56	6.1%
6.車での来庁のしやすさ(幹線道路との接続、駐車場の利用のしやすさ等)	433	47.4%
7.市街地の活性化に配慮すること	183	20.0%
8.整備の容易さ(建設や改修の費用や用地の確保等)	142	15.6%
9.その他	14	1.5%
計	2675	293.0%

【旧町村地域】

「津波や洪水による浸水からの安全性の確保」が88.4%で最も多く、次いで「耐震性の確保」 が64.8%となっており、津波や洪水による浸水対策を重視される方が多い。また、「車での来庁 のしやすさ」が50.8%となっており、災害拠点としての庁舎整備と併せて車でのアクセスの利便 性が求められているといえる。



1.津波や洪水による浸水からの安全性の確保	176	88.4%
2.耐震性の確保	129	64.8%
3.庁舎分散の解消	42	21.1%
4.庁舎機能(バリアフリー、使いやすさ等)の向上	49	24.6%
5.駅からの距離	6	3.0%
6.車での来庁のしやすさ(幹線道路との接続、駐車場の利用のしやすさ等)	101	50.8%
7.市街地の活性化に配慮すること	28	14.1%
8.整備の容易さ(建設や改修の費用や用地の確保等)	36	18.1%
9.その他	3	1.5%
<u></u> ╪┼	570	286.4%

問 15. 自由意見

回答者から寄せられた自由意見を大項目と小項目に分類し、それぞれの意見概要と意見数 を整理したのが下表である。

最も多かった意見は、自然災害からの安全性であり、地震や津波、洪水から安全な場所(高 台)への移転希望が多い。次いで庁舎機能の充実が挙げられ、庁舎の分散状況の解消に対す る要望が多くなっている。

耐震補強や建替を行って現在地に立地するほうがいいとする意見もあるが、安全な場所への移転希望の約1/4である。

また、新庁舎の整備に当たっては、財政面に配慮してほしいとの意見もあった。

庁舎への交通アクセス等の利便性については、自由意見としては少なかったが、設問に対 する地区別回答状況にあるように、市役所から離れた位置にある旧町村の回答者からは駐車 場整備も含めた交通アクセスの利便性に要望が高かった。

自然災害からの安全性確保(地震・津波・洪水)	258
安全な場所(高台)への移転を希望	194
移転場所を考慮してほしい	11
耐震性の向上(安全性の確保)	53
庁舎機能の充実	75
庁舎、窓口の分散解消	25
高齢者や障害者等に利用しやすい庁舎にしてほしい	18
市民が交流できるスペースを設けてほしい	10
使いやす〈機能的な庁舎にしてほしい	10
庁舎内が暗いので明る〈してほしい	4
災害時に拠点となる建物になってほしい	8
耐震補強等で現在地に立地	57
移転せず現在の場所で建替か庁舎を耐震補強してほしい	45
浸水に備え庁舎を高層化する	8
現状のままでよい	4
財政への影響	37
財政面を考慮してほしい	23
建物のデザインにお金をかけない	14
庁舎への交通アクセス等の利便性	35
移転後、来庁するための交通アクセスを良くしてほしい	24
駐車場を広くする等、自家用車でのアクセスの良さを重視してほしい	11